

川崎市立南菅小学校いじめ防止基本方針

1 令和8年度 学校経営計画

学校教育目標

心身ともに健やかで、思いやりがあり、調和のとれた児童の育成
 ～ 心が通い合う子どもたちをめざして ～

かわさき教育プラン
 「自主・自立」

多様な個性、能力を伸ばし主体的な人生が送れるよう自立に必要な能力・資質を培う

めざす子ども像

- ① 主体的に学びよく考える子
- ② 自他を大切にし、認め合い協力する子
- ③ 心身ともに健康でたくましい子

かわさき教育プラン
 「共生・協働」

個人や社会の多様性を尊重し、共に支え、高め合えるように、共生・協働の精神を育む

○知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図るとともに、充実した学校生活を展開する中で、基礎的・基本的内容の定着と資質・能力の育成を図る。
 ○児童の個性を大事にし、自ら学び自ら考える力を培う「生きる力」と豊かな心、健康でたくましい身体をもって共生社会の実現に向け、これからの社会を生きる児童の育成に努める。
 ○家庭、地域社会との連携により児童の安全を確保し、開かれた学校づくりに努める。

求められる教職員像

- 子どもを温かく厳しく支える人
- 子どもを理解し、誠実に向き合う人
- 常に学び合い、意欲的に実践する人
- 社会の変化や教育課題に向かって協働できる人
- 自己に厳しく、自分の個性を発揮する人

求められる学校像

- 子どもが主体的・対話的に学ぶ学校
- 子どもの安全・安心が保障される学校
- 子ども、保護者、地域住民、教職員の心が通い合う学校
- 子ども一人一人を大切に、学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす学校

本年度の学校運営の重点

◎確かな学力の育成

- * 主体的・対話的で深い学びをめざした学習の充実
- * 探究的な学びを通じた思考力・判断力・表現力の育成
- * 基礎・基本の定着と応用力・自己調整力を培う指導の工夫

学習プロジェクト

◎豊かな心の育成

- * 認め合い、支え合う気持ちの育成（異学年交流を通じて）
- * 規範意識の高揚と実践
- * きめ細かな児童理解・支援の充実
- * 人権尊重・道徳教育の充実

ハートフルプロジェクト

◎健やかな体の育成

- * 運動に親しむ態度の育成
 ～体育学習と運動の日常化による体力向上～
- * 健康・食に関する意識の向上と実践の充実
- * 防災・安全指導の充実

元気プロジェクト

◎生きる力の育成

- * 自尊感情やかかわる力の育成
- * 未来を創造し、将来に夢をもつ力を育成
- * 地域への愛着心
- * SDGsへの貢献
- * 自分で考え、行動し、課題を解決する力
- * 未来を創造する力の育成

《創立40周年スローガン》

HAPPY COLOR SCHOOL ～みらいにかがやけ 南菅～

みんなでハッピーな学校をつくろう・個性を大切に協力していこう・そして学校の良さをつないでいこう

2 「学校いじめ防止基本方針」策定の目的

いじめはどこの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であり、いじめを次に示す定義のように捉えることは、いじめの行為があったかどうかを学校が判断し、法的な責任を負うことをねらいとするものでなく、いじめられている児童生徒の救済を第一にして対応するものです。そのために、学校は一人ひとりの児童生徒との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組むために「学校いじめ防止基本方針」を改訂します。

3 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

4 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切にした授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくりや、インターネット上のいじめの防止、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にすることで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につかせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、

早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普通の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制を整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートを実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を定期的（いじめを認知した場合には状況に応じて）に行い、校内いじめ対策ケース会議の情報の集約と共有をします。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行くと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがあります。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要があります。さらに保護者への対応についても誠意を尽くし、問題解決に向けて信頼関係と協力体制を確立します。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いがある情報があったときには、管理職、及び児童生徒指導担当者・支援教育コーディネーター等と当該事案に関わりのある教職員で構成された校内いじめ対策ケース会議（以下「ケース会議」という）を迅速に立ち上げ、個人情報に配慮しながら、いじめに関する情報の収集と情報共有、事実確認の方法や役割分担の確認、対応方針及び支援・指導体制の決定をし、解決に向けた支援・指導を行い、保護者との連携を管理職のリーダーシップのもと組織的に実施します。また、状況に応じて当該事案の対応方針及び支援・指導体制等の見直しを行います。

② いじめられた児童生徒への支援

- もっとも信頼関係ができている教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン(登下校の方法など)を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- よく事情を聞き、いかなる事情があっても、いじめることはいけないことだと教え、同じことを繰り返さないようにします。
- いじめた行為そのものは、よくないことと理解させつつ、相手に対して心身の苦痛を与えるような結果になってしまった理由を考えさせ、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。

●いじめを防ぐことができなかつたことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立てを指導します。

●必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

●いじめに関係した児童生徒の保護者には迅速に事実を伝え、ケース会議で決定した指導方針と対応策を示すとともに、いじめ解消に向けて協力を要請します。

●解消するまで学校が主体性を発揮し、解消後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

5 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

次に掲げる場合を重大事態といいます。

① いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

② いじめにより児童生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

「いじめにより」とは、①②に規定する児童生徒の状況に至る要因が当該児童生徒に対して行われるいじめにあることを意味します。

①の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童生徒の状況に着目して判断します。例えば、

- 児童生徒が自殺を企図した場合
- 身体に重大な傷害を負った場合
- 金品等に重大な被害を被った場合
- 精神性の疾患を発症した場合

などのケースが想定されます。

②の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とします。

ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手します。

また、児童生徒や保護者からいじめにより重大に被害が生じたという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たります。

(2) 事実関係を明確にするための調査の実施

学校は、重大事態に至る要因となつたいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなどの事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

なおこの調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものでないことは言うまでもなく、学校が事実に向き合うことで、当該事態への対処や同種の事態の発生防止を図るものです。

6 令和8年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】（校務分掌に位置付ける）

校長、教頭、総括教諭、教務主任、支援教育コーディネーター（以下、支援教育 Co）
養護教諭、ハートフルプロジェクト、各学年主任、
※必要に応じて 学校巡回カウンセラー（月2回ほど来校）、
スクールソーシャルワーカー（要請による派遣）

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証・・・（校長）
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成・・・（支援教育 Co）
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営・・・（ハートフルプロジェクト、支援教育 Co）
- ・いじめ問題に関する資料の管理・・・（支援教育 Co）
- ・道徳教育との連携・・・（道徳主任、ハートフルプロジェクト、支援教育 Co）
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し・・・（支援教育 Co）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい・年間計画の作成・・・（支援教育 Co）
1年・・・（1年主任） 2年・・・（2年主任）
3年・・・（3年主任） 4年・・・（4年主任）
5年・・・（5年主任） 6年・・・（6年主任）
個別級・・・（個別級主任）
- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・（支援教育 Co）
- ・スクールカウンセラーとの連携・・・（支援教育 Co）

【生徒・保護者・地域との連携】

- ・児童運営委員会（学校はっぴー委員会）との連携・・・（学校はっぴー委員会担当、支援教育 Co）
- ・PTA校外委員会との連携・・・（教務主任）
- ・地域教育会議との連携・・・（教務主任）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・（校長・教頭・支援教育 Co・学警連担当）
- ・児童相談所との連携・・・（校長・教頭・支援教育 Co）

7 令和8年度 いじめ防止等対策年間計画

| 月 | 活 動 内 容 (校内いじめ防止対策会議・児童生徒指導部会・職員会議等) |
|----|---|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認・役割分担 ・全職員による共通理解 ・かわさき共生＊共育プログラムの取組について ・早期発見・早期対応方法などの確認 ・南菅小学校のきまり確認 ・年間指導計画確認 ・教育相談窓口の広報 ・第1回効果測定の実施 ・学校説明会による教育相談窓口の広報 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉・チクチク言葉についての学習 (全学年) ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・教育相談・個人面談の実施 ・第1回効果測定の実施・結果の集約について |
| 6 | <p>【児童生徒指導点検強化月間】の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な内容「学校はっぴー委員会によるいじめ防止キャンペーン」 (いじめ防止呼びかけ、チクチクなしなし標語募集等) ・第1回学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・学校生活アンケート集約について・学校生活アンケート結果を受けての対応について |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・夏休み期間中の対応確認 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめ防止対策に関する研修会・効果測定結果の集約・結果を受けての対応について |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・前期の反省とまとめと後期の具体的な取組の確認 ・「性の多様性プログラム」(5年生) ・個人面談の実施 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・児童会運営企画によるいじめ防止活動の実施(生活目標との連動、ふわふわ宣言) ・命の学習実施(5年生) ・第2回効果測定の実施 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第2回学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・学校生活アンケート集約について・学校生活アンケート結果を受けての対応について ・効果測定結果の集約・結果を受けての対応について ・「子どもの権利」授業(6年生) |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・CAPプログラムの実施(4年生) ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・教育相談週間の実施(個人面談含) |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第3回効果測定の実施 |
| 2 | <p>【学校体制振り返り月間】の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・今年度の反省→学校評価への反映 ・効果測定の結果の集約・結果を受けての対応について |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・来年度に向けての基本方針の見直し ・教育相談の実施 |

◎本校のいじめ防止に向けた取組

児童・生徒の自主的な取組

[自主的な企画・運営]

- ・委員会計画による集会・児童集会での呼びかけや人間関係づくりのレクリエーション
(1年生を迎える会、6年生を送る会、各委員会主催の集会など)
- ・自主的な学年主体のあいさつ運動

[交流活動の活性化]

- ・異学年交流 (1, 6年の交流、1, 2年の生活科交流学习、きょうだい学年の設定・交流)
- ・委員会活動 (生活目標への取組、集会、全校レクリエーション、赤い羽根・緑の羽根募金など)
- ・小中連携活動 (小中連携授業研修会、地域教育会議主催のこども会議などのイベントでの交流
6年生中学校体験・部活動体験 他)
- ・幼保小連携活動 (幼保小連携研修会、小学校見学、小学校体験 他)

[啓発活動]

- ・いじめ防止ポスターの作成、いじめ防止標語コンクールへの参加、いじめ防止取り組みの実施
- ・チクチク言葉ふわふわ言葉の学習、チクチクなしなし宣言 (一人一人の思いを掲示)

保護者の取組 (PTA 活動)

- ・広報紙での呼びかけ
- ・登下校パトロール

地域住民の取組

- ・地域での見守り活動 (パトロールボランティア)